

学校の様子（美術 I 抽象画）

美術 I（1年生）では、4時間でピカソ「泣く女」シャガール「私の村」の拡大模写を行いました。

鑑賞①

プロジェクターにピカソ「泣く女」を投影。対話型鑑賞で鑑賞を深めました。

教員「この絵について教えてください。」

生徒「ピカソ?」「女の人が描かれている」「泣いている?」

教員「どのような感情で泣いているのでしょうか?」

生徒「ハンカチ加えているから激しく」「悔し泣き」「ネガティブな感情」

教員「何人描かれてますか?」

生徒「????一人?」



表現活動

キュビズムやシャガールについて説明をした後、作品を15個のパーツに分割し1人1パーツを拡大法で大きく模写をしていきました。

☆キュビズム☆

対象を様々な方向から捉えて、一つの画面に再構成する表現。「泣く女」の場合は横から見た顔、正面から見た顔、斜めから見た顔を分解して再度組み立てているのが見て取れる。泣くという感情を、具体的な形や線で捉え再度構築している。目に見えないものを写実で見るよりも強いインパクトで表現している。「泣く女」はピカソを取り巻く3名の女性について描かれたとの説があります。



鑑賞② それぞれのパーツを貼り合わせた後鑑賞プリントを活用し表現理解を深めました。
 以下はプリントの抜粋文です。

自分のパーツについて	線を太く描くことでピカソの描いた紙を意識できるようにした サインを描くのが難しかった。木目の色を再現するが楽しかった
全体の作品について	ピカソは繋がってないところもあったけど、逆にピカソの作品のようになっていたので感動した。
	明るい色を使っているけど背景の色が黒く暗い色だから絵の感じがそこまで明るいと感じないところがいいと思った。
	しっかり合っていたり、少しズレていたりして、とても面白い作品になった。色もところどころ違っていたりしてそれも味があってすごいなと思った。



授業者から

表現活動の際に何人かから「何を描いているのか分からなくなる」という声が聞けてうれしかったです。今回はキュビズムを通して抽象画の鑑賞を深めることを目標にしていました。15個のパーツに分けてそれを一枚に再構成する過程を通して表現の面白さ、見方、考え方を変えていきます。描いている時、「美しく仕上げようとするな」とは何度も言いました。各個の色や線や形の感じ方、捉え方が再構築することで大変美しい表現になったと考えています。